

令和4年12月15日

会 員 各 位

熊本市歯科医師会
(医療管理委員会扱い)

新型コロナ禍における後方支援病院口腔外科の歯科治療について

現在、新型コロナ禍により、多くの病院での診療に影響が出ています。病院でのスタッフ感染等による機能低下、クラスター等による病棟の一部閉鎖など様々なことが起こっています。そのような中、各後方支援病院口腔外科の先生方は診療されています。

そこで、現状（令和4年11月14日現在）についてまとめてみましたので参考にしてください。社会情勢は今後、変化していきますので、逐次ご連絡いたします。

新型コロナ禍における後方支援病院の現状

最近は、多くの病院職員が感染または濃厚接触者となることで制限された中、医療が行われている状態です。特に病棟では、少ない人数での稼働となっています。また感染者の増加で一般病床数が削減され、通常であれば入院加療が必要な場合でも、無理しながら外来で診療を行ったり、緊急性が高くない患者さんでは入院延期や手術延期がおこっている状況です。

新型コロナの陽性者あるいは濃厚接触者の救急歯科治療について

後方支援病院口腔外科では、原則、コロナ陽性者（濃厚接触者を含む）の抜髄などの歯科治療は行っていません。一部の病院では、歯科的に重症炎症など生命にかかわるような緊急事態のみ、医科と相談し対応することが出来る可能性があります。

上記の通り、現状では新型コロナ感染症の陽性者や濃厚接触者の一般歯科診療は非常に困難な状態です。病院ではクラスターの発生に大変気を遣っていますので、下記のことにご留意してください。

- ・患者を紹介する場合は、必ず新型コロナウイルス感染症の兆候がないこと濃厚接触者ではないことを確認した上での紹介
- ・陽性者や濃厚接触者は、必ず療養解除後に予約する
- ・新型コロナ陽性者あるいは濃厚接触者で、歯科的に重篤な症状がある患者については、まず、後方支援病院口腔外科に電話連絡し相談する